［課程－２］

審査の結果の要旨

氏名　角川　由香

本研究は、高齢入院患者が病院から自宅へ退院する際の退院直後の移行期支援の実施と、患者アウトカムとの関連を検証することを目的とし、退院直後の移行期支援に関するインタビュー調査、退院後の対処困難さ尺度：日本語版（J-PDCDS）の作成と信頼性・妥当性の検討、退院直後の移行期支援実施と患者アウトカムとの関連検証を行ったもので、以下の結果を得た。

1. 急性期病院の退院支援看護師が実践している退院直後の移行期支援の具体的要素を抽出し、支援の実施と患者アウトカムとの関連を表す仮説モデルを示した

2. 退院後の対処困難さ尺度：日本語版（J-PDCDS）を作成し、一定の信頼性・妥当性を確保した

3. 退院直後の移行期支援を受けた患者はそうでない患者に比べ、退院後 2 週間時点での対処困難さが低く、退院後 30 日時点で自宅療養を継続しているという可能性を示した

以上、本研究では、国内外を問わず、退院直後の移行期支援の具体的内容が十分に明らかにされていないなか、その要素を抽出し、支援の実施が患者アウトカムに至るプロセスを可視化する仮説モデルを提示した。また、自宅療養の継続という長期的なアウトカムを測るときの代替として、患者が直面する退院後の対処困難さに着目し、それを測定する尺度の日本語版（J-PDCDS）を作成した。さらに、前向き観察研究により、退院直後の移行期支援を提供することが退院後の対処困難さおよびその後の療養継続に反映しうることを示したことは、在宅ケア分野の評価において非常に新規性が高い。これらの知見は今後、病院から自宅へと退院する高齢者に対して行う移行期支援に、新たな選択肢を示すことに寄与することが十分に考えられ、その意義は大きい。

よって、本論文は博士（保健学）の学位請求論文として合格と認められる。